

平成 21 年度大学職員情報化研究講習会 ～基礎講習会コース～

グループ討議報告書

C班4グループ

「 3 S for Love ～愛される大学へ～ 」

大学組織において、情報活用に関する様々な課題を解決し、より良い ICT 環境を整備するためには、何よりもまず組織全体の意識改革が必要である。そこで、三つの S、つまり「Smart（無駄のない組織運営）」、「Speedy（迅速かつ正確な業務遂行）」、「Strong（連携強化による強固な組織基盤）」の実現による、愛される大学づくりを提案したい。

まず、理想とする大学を目指す上で問題となるのは、学生・教員・職員それぞれの関係の希薄さである。大学に関しては多種多様な人間がステークホルダーとして想定できるが、まずこの三者の連携を強め、彼らに愛される大学を目指すことから始めるべきであろう。なぜならば、ひいてはそれが、保護者や地域社会からも信頼され、愛されることにつながると考えられるからである。

学 - 職 - 教のつながりの中で、その一番の基幹となるのは、教員 - 職員間の連携である。教職員全体の意思統一をはかるために、新年交歓会等のイベント時における、大学トップによる方針説明の場を利用したい。まず、学長や理事のスピーチ後に、同イベント内で、それを踏まえた内容でのパネルディスカッションを行う。このときパネリストには、教・職両サイドから上層部の人物を据えるのが適切であろう。さらに後日、その内容について各部署でも話し合いの場を設け、そこで集約された意見を再びトップに戻す。このような全体参加型のプロセスを経ることで、組織のベクトルが統一でき、さらに各人の所属意識を高めることができるのである。

さらに、こうした教職員の連携をベースに、学内におけるその他のつながりも強化することで、「Smart」かつ「Speedy」な理想の大学をつくりあげていきたい。そのためには、第一に、日常業務における職員相互の結びつきを強めていかなければならない。そこで求められるのが、各職員がお互いの業務を把握できるようなシステムづくりである。例えば学内ネットワークを利用したスケジュール表や業務分担表の公開、または各部署で個別に管理されているデータベースを統合することにより、さらなる情報の共有が進められるべきであろう。無論、こういったシステムを開発する際には、アクセス権限の管理やセキュリティの対策に十分に留意する必要がある。

第二に、学生と職員とのつながりを強めることも重要である。これに関しては、例えば学生サービスに関するアンケートの実施や、職員主催によるイベントの企画といった施策

を通して、お互いの信頼関係を構築していきたいと考える。

第三に、学生と教員との絆を確かなものにするために、教員による面談の導入を提案する。さらにこの面談に、従来学生のメンタルケアのために作成されていた学生カルテを学内ネットワークによりデータを共有し活用するというのも、一つの方法である。しかしながら、学生カルテは、個々人のデリケートな情報も含み得るものであり、その使用用途や共有範囲には最大限の注意が払われなくてはならない。

以上のように、大学における情報活用を進めるためには、まず組織内の意識改革によって、基礎固めを行うことが必要だと考える。そのためには、学 - 職 - 教相互の連携による堅固な基盤づくりをベースとして、より効率的な体制を構築していくべきである。これにより理想とする大学、つまり社会から広く愛される大学を目指していきたい。

以 上